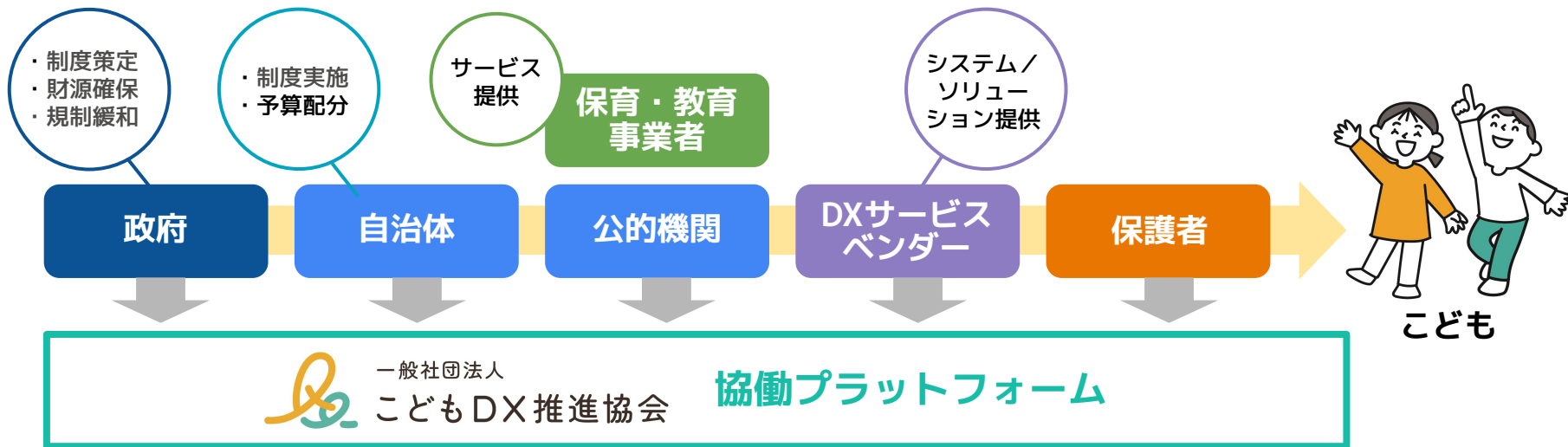
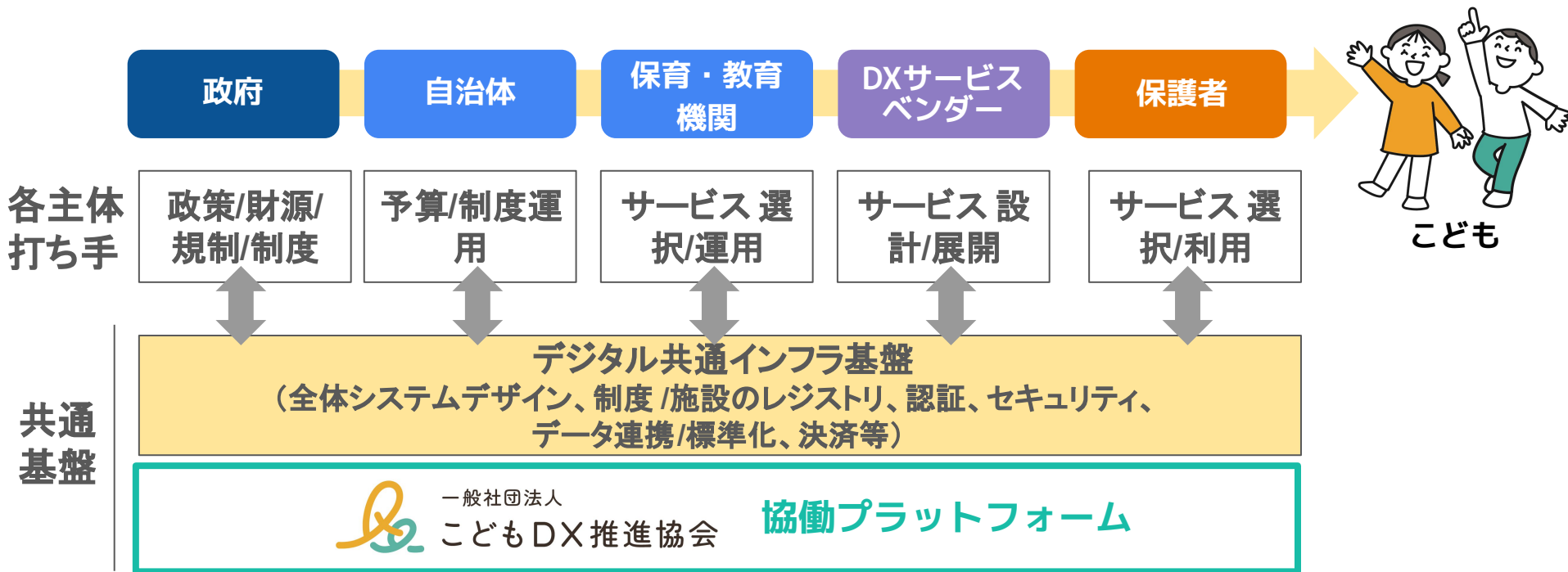


行政・自治体・公的機関・事業者・保護者がテクノロジーを介して連携しうる

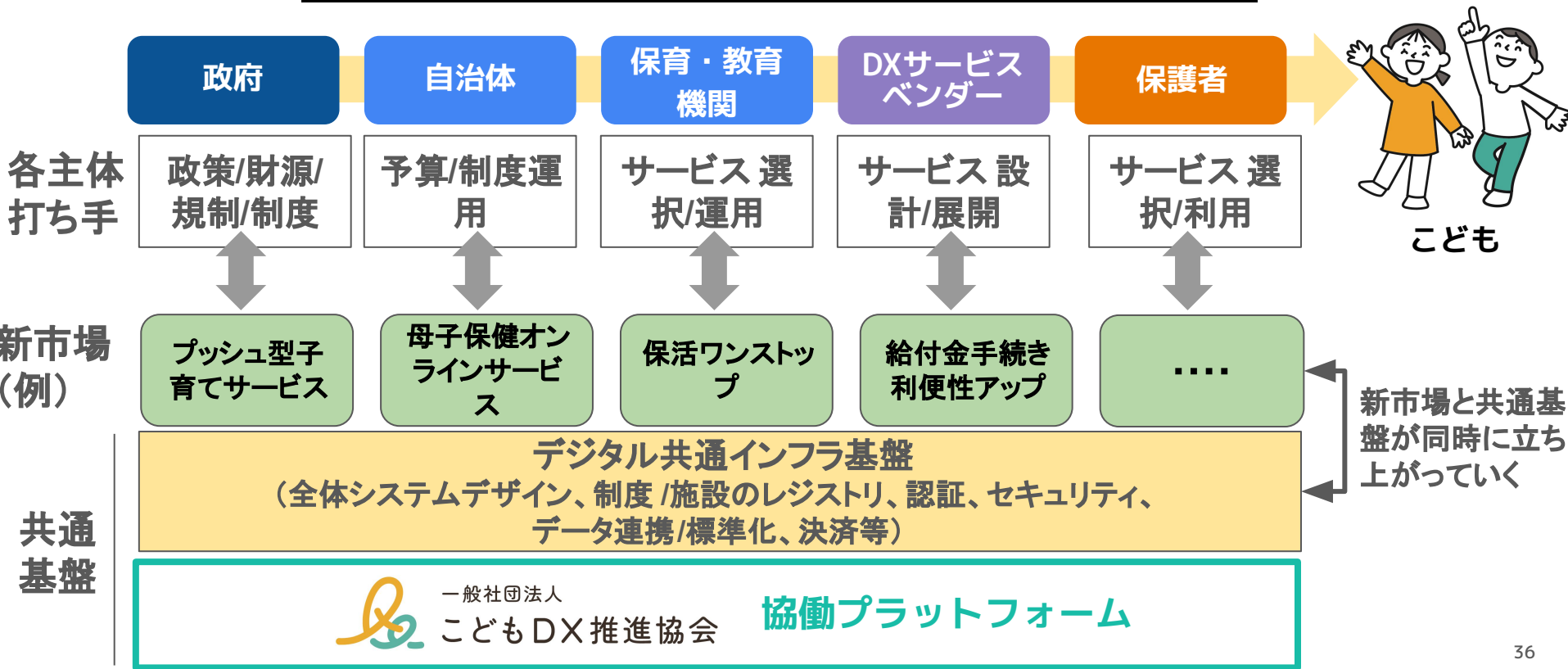
「協働プラットフォーム」の役割を担う



「協働プラットフォーム」は、各利害関係者の相互理解を促進しつつ、
デジタル共通インフラ基盤の土台がまず必要



デジタル共通インフラ基盤の上に、様々な新市場/サービスが立ち上がり、
官民連携でこどもDX市場（業務効率化だけでなく付加価値創造）の創造へ



「社会インパクト」と「投資/リスク」とのバランスの中で、
こどもDXの社会インパクトを最大化していく

社会インパクト
(公的・民間)

国・自治体・こども施設・
サービスベンダー側

投資・リスク
(金額・時間・価
値観)

単純な費用対効果ではなく社会通念/
価値観とのすり合わせも必須



ステップ1(新市場+共通基盤)が動き始めた。
ステップ2~3以降(3-5年後か)を描き社会実装すべき